本当の思いやり

小四

ぼくには、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんがいます。おじいちゃんは何でもできて、たよりになります。いつもおだやかでかっこいいです。おばあちゃんはどんなときもやさしくて、いっしょに遊んでくれます。おばあちゃんの作るほうれん草のごまあえは、あまくてとってもおいしいです。おじいちゃん、おばあちゃんは、ぼくと会うときはいつも笑顔で元気だから、いっしょにすごすとき、ぼくは自分のことばっかりで「気づかう」ということをしていませんでした。

去年の秋に、ぼくはそう合的な学習の時間で、「ふくし」について学習しました。ふくしとは、だれもが幸せにくらすことのできる世の中を目指すことだと学びました。そして、じゅ業の中で高れい者や車いすの体験をして、ぼくははっとしたことを今でもおぼえています。高れい者の方や体が不自由な人、目が悪い人の大変さを知ったからです。おじいちゃん、おばあちゃんは、ぼくには大変そうなすがたなんて見せないけれど、実は生活の中に大変な部分があるのかもしれないと気付かされました。

高れい者体験では手や足に重りを

着けたり、し界がせまくなるゴーグルを着けたり、周りの音をしゃだんするヘッドホンを着けたりしました。ぼくは、高れい者や体が不自由な人、目が悪い人になりきってしょう害物をよけたり、文を読み書きしたり、バスケットゴールにボールをシュートしたりしました。階だんの上り下りもしました。じっさいにやってみて、思うように動けなかったり、し界がせまいせいで周りが見えなくて転びそうになったりしました。また、音が聞こえにくくてシーンとしていてこわく不安な気持ちにもなりました。あまりにもぼくの日じょうとはちがいすぎていたので、自分の体が自分の体ではないように感じました。

ぼくはこの体験を通して、相手の立場になってみると、自分とは全くちがう感かくや思いがこんなにもあるのだと知り、とてもしょうげき的でした。考え方や感じ方がみんなちがうということは、頭では分かっていたつもりでしたが、体験を通して分かっていた気になっていただけの自分がはずかしくなりました。年れいや性別、一人一人みんなちがう身体（からだ）で、みんな感じ方や気持ちもちがうからこそ、相手の立場になって考えてみることがとても大切だと学びました。そして、それこそが「思いやり」なのかな、と思いました。

これからは、自分のおじいちゃんおばあちゃんはもちろん、高れい者

の方や体の不自由な人、目が悪い人だけでなく、ぼくの周りにいる人、友達や家族にも思いやりの気持ちをもってせっしたいと思います。そして「思いやり」があふれるすてきな世の中になるといいなと思いました。